

トピックス

ドイツ航空宇宙センター(DLR)と関係強化にむけた
同意書および共同研究協定を締結しました

鉄道総研は、平成30年3月1日、ドイツ航空宇宙センター(Deutsches Zentrum für Luft- und Raumfahrt e.V., 以下、DLR)と、駐日ドイツ連邦共和国大使館において今後の関係強化にむけた同意書(Letter of Intent)および共同研究協定を締結しました。

1. 同意書ならびに共同研究の趣旨

鉄道総研とDLRが、両者の有する研究開発の能力と資産を活用し、共同研究・情報交換が可能な分野について相互理解を深め、双方の能力を活かした協力プログラムを推進することを目的としています。また、今回の同意書に基づき、トンネル微気圧波の模型実験に関して共同研究協定を締結しました。

2. DLRとの関係の経緯

鉄道総研とDLRは、これまで鉄道技術に関する情報交換などを行ってきました。平成9年には風洞実験におけ

る空力音測定に関する共同研究でDLRへ職員の派遣を行いました。今後も共同研究や人材交流の可能性が高いことから同意書を締結し、今後の関係を強化することとしました。

3. 実施項目

今回の同意書の内容を以下に示します。

- (1) 共同研究を行うこと
- (2) さらなる関係強化にむけたマネジメントミーティングを実施すること
- (3) 今後の共同研究に向けた意見交換を実施すること



協定締結後のPascale Ehrenfreund DLR会長(左)と熊谷則道 鉄道総研理事長(右)

【DLRについて】

DLR(本拠地:ドイツ連邦共和国ノルトライン・ヴェストファーレン州ケルン市、会長:Pascale Ehrenfreund氏)は、ドイツ連邦共和国の航空技術開発および宇宙開発を担う国家機関です。職員数約8000名、40の研究所を有し、宇宙、航空、エネルギー、運輸(陸上および海運)に関する幅広い分野の研究開発を行っています。

このたび共同研究を実施する空気力学・流体技術研究所は、ニーダーザクセン州ゲッティンゲン市およびブラウンシュバイク市にあり、トンネル微気圧波に加えて航空力学、ヘリコプターの力学、空力騒音、超音速技術などを研究の対象としています。